



2022年11月3日～30日にかけて開催した、魅力的なメインストリートづくりに向けた社会実験の結果を沿道の皆さんや関係者と共有し、沿道の活性化やまちづくりについて話し合う場として、2023年1月15日に振り返り会を開催しました。

Topic 1 社会実験の結果報告

来訪者・沿道事業者アンケート調査、通行状況調査などの各種調査から、社会実験の目的別に公共空間のあり方等の検証結果を沿道の皆さんや関係者と共有しました。



① 通りの将来像の可視化

● 将来像の共有について

- ・メインコンセプトや中央・東西通りの将来イメージについて、来訪者・沿道事業者ともに8割以上の方から、賛同を得ることができた。
- ・実施内容や沿道事業者の協力についても、好意的に受け止める結果が多かった。

⇒メインストリートをめざすべき方向性は確認、共有できた！

● 滞在空間の創出について

- ・所々で休憩される様子は見受けられたが、多様な利活用には至らなかった。
- ・一方で、イベント時などは多くの利用が見られた。

⇒滞留空間の用意するだけでなく、そこで何かができる、楽しめるコンテンツとセットであると有効であることがわかった！



社会実験の様子（駅前前公園イベント時）

② 沿道事業者等の機運醸成

● 沿道の機運醸成・連携について

- ・82店舗と多くの沿道事業者の協力を得ることができ、連携によるメインストリート形成への足掛かりにすることはできた。
- ・一方で、社会実験では沿道形成に対する機運が高まったとは言えず、積極的な参加希望は限定的であった。

⇒機運を高めるためには、別の切り口を探るとともに沿道事業者等の主体性の後押しにつながる、継続的な取組みの検討が必要！



沿道事業者と連携した歩道上のテラス席

③ 歩行者・自転車の通行の啓発

● 歩車分離に向けた通行の啓発について

- ・「歩きにくい」と感じている方が来訪者の6割以上であり、「歩道を歩きやすくしてほしい」との意向が来訪者・沿道事業者の7割であった。
- ・誘導看板を設置したが、歩道上を通る自転車の状況に変化は見られず、看板による啓発だけでは交通適正化の効果は薄かった。

⇒通行の安全面につながる整備（ゆとりある空間の確保）の検討が必要！



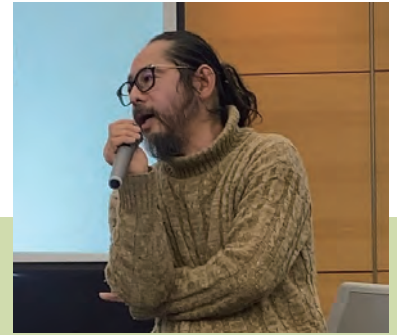
誘導看板

< 今後の対応 >

これらの意見をもとに、ストリートデザインガイドラインの策定とともに、将来像の実現に向けた実践として(1)沿道事業者等との切れ目のない継続した機運醸成や、(2)活動や通行の安全面に資するゆとりある空間の創出に向けた取組を検討していきます。

Topic 2 ゲストによるレクチャー

JR 吹田駅前周辺の活性化に関するまちづくり団体「じゃない吹田」代表の生田氏に、中心市街地のまちづくりに取り組んでいくためのポイントやプロセスなどについて教えてもらいました。



生田 謙一郎氏
「じゃない吹田」代表

① 暮らしているまちがもっと楽しくなるように

自分が育ち、商売をして、暮らしているまちで、大きなことはできなくても、普通の暮らしがもう少し楽しい・賑やかなまちにならないかなと思い、まちづくりの活動を始めました。

活動を通して、まちを歩いてもらい、知ってもらい、好きになってもらえたらいいなと思っています。

② 声をかけて仲間を増やす

仲間を集めて活動を波及していくことが大事です。一緒にまちを作る仲間は、気があいそう、興味がありそうと思う人に「一緒に取り組もう」と声をかけて誘い、仲間を増やしています。

③ 粘り強く続けていく

最初はまち歩きなどを通して、まちを知ると同時に行政や商店街のメンバーなどとのつながりを作るところからはじめました。活動を広めるために立ち上げた、月に一度、定期的で開催する手づくりマルシェ「Village Mart 吹田」は、既存の店舗と少し考え方の違いもあって商店街から駅前広場に場所を移すなどもありましたが、形を変えながらも続けており、今年で4年目になります。

取組をはじめてから、少しずつ新しいお店が出来つつあり、新たにまちづくり会社の設立を予定しています。空き店舗をリノベーションして活用し、新たに店舗に入ってもらうことも検討しています。この会社の社長は40代の方で、こうして取組を次へと繋いでいければと思っています。

折れそうになることもありますが、定期的やり続けることを決めて、無理せずに継続することが大事です。

Topic 3 意見交換会

社会実験の結果報告、及びゲストによるレクチャーを踏まえ、社会実験を振り返り、今後活かすアイデアを話し合いました。



社会実験の感想

- ◎みちを利用する人が増えた印象がある
- ◎小さな活動でも良いので継続していけば、まちの雰囲気はもっと変わりそう
- ◎1年目の足掛かりになったのでは！継続していくなら、次は全力で楽しみたい

- △何のために社会実験をしているのか、もっと活動を多くの市民に知ってもらうことが重要
- △道路での歩きやすさと賑わいをどう両立させるのかを考えていく必要がある
- △「茨木市らしさ」をもっと出したい

今後活かすアイデア

